

ジェネリック医薬品（後発医薬品）は、有効性や安全性が確認されている先発医薬品と同じ有効成分を含み、厚生労働相の承認を得て製造・販売されます。ジェネリック医薬品は先発医薬品と比較して短期間に少ない費用で開発できるため、先発医薬品の4〜5割の価格にできます。



石澤 啓介 部長

徳島大学病院薬剤部

# 四国健康ナビ



最近さまざまな特徴を持つジェネリック医薬品が登場し、医療現場で使用されています。特徴的なものとして、オーソライズドジェネリック（AG）があります。AGは先発メーカーから特許使用許諾を得て、先発医薬品と同一の添加物や製法で作られたジェネリック医薬品のことを示します。

また、アドバンスドジェネリックという新しい概念も生まれています。先発医薬品と比べて、製造方法や剤形に工夫を凝らしたジェネリック医薬品のことです。例えば▽味や錠剤の大きさ

を改良することで飲みやすくする▽錠剤からフィルム製剤にすることで持ち運びしやすくする—などの工夫が施されたジェネリック医薬品も登場しています。

## ジェネリック医薬品 正しい知識を

細胞から生産されるたんぱく質を有効成分とするバイオ医薬品についても、多くの後発品が開発されています。これらはバイオ後続品（バイオシミラー）と呼ばれ、糖尿病やリウマチの治療薬がすでに使用されています。バイオ後続品は化学合成医薬品と比較して開発工程には時間やコストを費やしますが、薬価は先行バイオ医薬品の7割とされています。現在、抗体医薬品が広く使用されている抗がん剤についても、バイオ後続品の開発が進んでいます。

ジェネリック医薬品を取り巻く環境は、ひと昔前と異なり大きな変革期を迎えています。日本は欧米諸国と比べてジェネリック医薬品の使用量が少ないといわれています。医薬品の費用負担軽減や医療保険財政の改善のためにも、まずはジェネリック医薬品について正しい知識を身に着けることが大切であると考えます。